

(様式2)

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	本年度はアンケート対象者を昨年の倍の180名にお願いした。「学校は、自主性・創造性のある生徒を育てようとしている」「学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている」という項目において、「よくあてはまる」「ややあてはまる」という評価の合計はそれぞれ79.0%、73.9%である。概ね本校の学習指導の方向性について保護者の方々に理解されていると思われるが、分からないと回答した保護者が増加している。さらに具体的取り組みである「学校は、子どもが意欲的に取り組むように授業の工夫をしている」についても、保護者の28.6%が「わからない」と回答している。その一方、「学校は保護者が授業を参観する機会等をよく設けている」について、83.0%と高い値であることから、授業等に参加する機会は多くあるが、その様子や内容について理解されるに至っていないことを示している。また生徒からは「授業の教え方や説明がわかりやすい」において80.7%の回答を得られたが、逆に16.4%の生徒はそう考えていない。今後さらに授業改善に努めていく必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に対応した指導 1年生：学習習慣の定着と基礎学力の充実 2年生：学力の定着と主体性及び論理的思考力の育成 3年生：実践的学力の充実と生きる力の醸成 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> クラス担任及び教科担任との連携強化（教育相談との連携） 授業内容の向上とその方策の研究（授業改善委員会の開催等） 高大接続改革に関わる新教育課程の研究及び立案 	
6 目標達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定 あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> 学習アンケート・学習時間調査の結果を基にした各分掌・教科での分析 定期考査や外部模試等の結果分析を基にした指導内容の検討 	(1) 個別面談指導による生徒把握 (2) 定期考査や外部模試等、調査	
8 取組み状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 個別懇談期間以外にも放課後、昼休みを利用したきめ細かな面談を実施し、個別対応を強化する。 校外模試の分析結果を職員会議で報告し、職員間で情報を共有し、各教科で対策を検討する。 45分の授業を有効に活用するため、授業改善に努め自習時間をつくらない等、職員の意識統一を図る。 授業改善委員会を開催し、授業改善を図る。 	①学習習慣の定着 ②学習意欲・向上心の喚起 ③生徒学力の把握	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	学習指導及び学校独自項目 A の評価の中で、「地域の人々や中学校に学校の教育方針や教育活動の現状をよく周知している」については保護者、生徒ともに昨年度より高評価をいただいた。学校案内や体験入学等の工夫・改善、授業の充実に取り組んできた成果が現れてきたのではないかと。しかし、「あまりあてはまらない」と回答する保護者・生徒も増加している。これは本校の教育活動の周知についてまだまだ不十分であることを示している。今後は、本校教育活動の特色である総合的な学習の時間の取組やSSHでの探求的な学習活動をさらにPRすると同時に、HPの充実、普段からの教育活動を確実に実行する必要があると強く感じた。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習活動を高め、個々の能力を向上させるため、授業研究週間、授業改善委員会等を通じて、授業改善を図る。 行事ごとにHPで報告すると同時に、学校紹介パンフレット等を作成し、広報活動に利用する。 	
	総合評価 A (B) C D	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年 1月25日

【意見・要望・評価等】

- ・数多くの生徒が様々な進路を目指していくなかで、個々に合わせた指導を行っていくことがとても大切である。個々の能力に応じたきめ細かな学習指導体制を確立してもらいたい。
- ・生徒と保護者の思いが違っているところがある。親子の会話が薄れてきているのかもしれないが、まずは生徒が満足できることが大事である。
- ・やりたくないと思う生徒は居場所が無くなる。幅広い考えを持つ生徒がいるなかで、現状で困っている生徒をどうするかが課題である。一律にやる部分と、一人一人に寄り添った教育をお願いしたい。